

県民の皆様には統計を身近に感じていただくためのページです。

随時、色々な統計に関する話題・データを紹介します。

～偉人に学ぶ統計の大切さ～

統計は、個人や事業者が行う現状認識、計画立案、事後評価等の諸活動のため、欠かすことができない重要な役割を果たしています。しかしながら、目に見える諸活動とは異なり、統計の果たす役割は必ずしも目に見えるものではないため、統計の重要性が時として見過ごされることもあります。しかし、統計なくして経済、社会生活等が成り立たないことも事実です

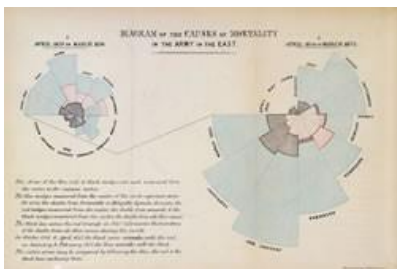
今回は、歴史上の偉人と統計との関わりを通じて、社会の舞台裏における統計の貢献等についてご紹介します。

1 白衣の天使の正体は！？（統計学者ナイチンゲール）

元祖「白衣の天使」フローレンス・ナイチンゲールは、看護師ということは有名ですが「統計学者」であることはほとんど知られていません。彼女が「クリミアの天使」と呼ばれるようになったのも、献身的な看護の功績より、むしろ、統計に基づく衛生環境の改善の功績が大きかったという事実もあまり知られていません。

ナイチンゲールは、母国イギリスが参戦したクリミア戦争従軍の際、後方の地スクタリの病院で負傷兵の看護にあたりました。しかし、戦死より伝染病で多くの方が死亡している事実には驚愕し、統計によりその実態を明らかにしてイギリスの有力者に提出しました。この報告書には、統計になじみの薄い国会議員や役人にもわかりやすいように、当時としては珍しかったグラフを用いて、視覚に訴えるプレゼンテーションを工夫しました。今も「鶏のとさか」と呼ばれる円グラフの一種はこの過程で彼女によって考え出されたものです。この結果、衛生改善命令が出され、2月には約42%まで跳ね上がっていた死亡率を4月に14.5%、5月に5%に抑え込みました。この功績によりナイチンゲールは「クリミアの天使」や「白衣の天使」と呼ばれ、そこから看護師のことを「白衣の天使」と呼ぶようになったといわれています。

その後、ナイチンゲールは1859年に女性として初めて王立統計協会(the Royal Statistical Society)の会員に選ばれ、その16年後には米国統計学会の名誉会員にもなっています。



クリミア戦争における死因分析を現したグラフ(「鶏のとさか」)
左:1855年4月～翌年3月、右:1854年4月～翌年3月



統計の豆知識①

古来、為政者は、徴税、兵役などのために、その支配する領域内の実情をできるだけ正確に把握する必要がありました。統計は英語で「statistics」といいますが、これは「state」(国家)、「status」(状態)と同じ語源に由来しています。まさに、「state」(国家)の「status」(状態)を図る「statistics」(統計)というわけです。

2 統計どおりだったら日本はアメリカに勝っていた！？（吉田茂とマッカーサー）

終戦後、吉田茂が外相に任命され、GHQマッカーサー司令との交渉窓口の役割を果たすこととなりました。

当時、我が国は極度の食糧不足に陥りました。そして、この危機に対応するため、吉田茂は農林省の統計を基に算定した不足分450万トンの食糧援助をGHQマッカーサー司令に要求しました。一方、マッカーサーは、ドイツへの支援も米国が行わなければならない、日本に支援する余裕はないとの理由で当初、この要求を断りました。しかし、吉田は、「このままだと1千万人の餓死者が出て、混乱が発生する。この混乱に赤軍(旧ソ連)が乗じたらどうするの

か。」と、支援を渋るマッカーサーを半分脅して支援の約束を取り付けたと言われています。

ところが、実際に支援されたのは、要請の1/6の70万トンであったにも関わらず、吉田茂がマッカーサーに説明したような餓死者は出ませんでした。

数か月後、「話が違うではないか！ 日本の統計はメチャクチャだ！」と机をたたいて激怒するマッカーサーに対し、吉田茂は平然と、「当然でしょう。もし日本の統計が正確だったら、あのような無茶な戦争などしなかったし、もし、統計どおりだったら日本はあなたの国に勝っていたはずですよ。」と返したのです。

この吉田茂一流のジョークにマッカーサーも大笑いをして、結局お咎めなしとなったようですが、吉田茂は相当冷や汗をかいたようで、この時、統計の改善の必要性を感じたようです。

このような経緯から、吉田が総理になった時、戦後の統計復興が始動することになります。



統計の豆知識②

ハレーすい星を発見したことで知られるエドモンド・ハレー（1656-1742）は、それまで偶然が支配するところと考えられていた人間の死亡に一定の規律性があること、すなわち集団的な人口に現れる死亡には、これを予測し得る一定の秩序があることを明らかにしました。当時のイギリスでは、生命保険会社の経営はギャンブルの一種であるかのように考えられていましたが、ハレーが生命表をさらに発展させたことにより、生命保険会社が合理的な保険料金を算出できるようになったのです。

問合せ先: 熊本県企画振興部 交通政策・統計局 統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1
電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp